

令和8年度 第3回臨床腫瘍セミナー

がん薬物療法における薬剤性肺障害/間質性肺炎 ーなぜILDは分かりにくいかー

近年、免疫チェックポイント阻害薬（ICI）や抗体薬物複合体（ADC）の登場によりがん薬物療法は大きく進歩した一方、これらに起因する薬剤性肺障害のマネジメントが臨床現場の重要な課題となっています。特にICIによる免疫関連有害事象や、ADC投与時の間質性肺疾患は、早期発見と迅速な介入が患者の予後を左右します。

一方、初期症状である息切れや咳、発熱はがん治療中にはごく普通に遭遇するもので、どの段階でどんな検査をすればいいのか、判断に迷うことが多いと思います。さらに診断にはCT画像が必須ですが、ILDかどうかの鑑別や、確定診断は容易ではありません。

本講演では、看護・診療の最前線に立つスタッフの皆さんに、薬剤性肺障害の発症機序や初期症状などの「総論」と現在主流となっているICIとADCにフォーカスし、発症時期の違い、特徴的な画像所見などの「各論」の両面についてできるだけ分かりやすく解説し、初期対応のポイントについても整理します。

「普段と違う」患者の小さなサインを多職種連携でどう拾い上げ、安全な治療継続につなげるか。明日からの臨床に直結するような議論ができるのを楽しみにしています。

東京都立がん感染症センター駒込病院

臨床研究・治験センター 部長 院長補佐（学術担当）

講師

加藤 晃史 先生

（かとう てるふみ）

- <所属> 東京都立がん感染症センター駒込病院
臨床研究・治験センター部長 院長補佐（学術担当） 呼吸器内科医師
- <学歴> 1983 3 県立静岡高等学校 卒業
1991 3 京都大学医学部医学科 卒業
- <職歴> 1991 6 天理よろづ相談所病院 ジュニアレジデント
1993 6 〃 シニアレジデント（内科ローテート）
1995 6 〃 チーフレジデント（兼任）
1996 6 〃 呼吸器内科 医員
2003 6 国立がんセンター中央病院 肺内科 チーフレジデント
2005 6 国立がんセンター研究所 支援施設 リサーチレジデント
2008 4 神奈川県立循環器呼吸器病センター 呼吸器内科 医長
2016 4 神奈川県立がんセンター 呼吸器内科 医長
2025 4 東京都立がん感染症センター駒込病院 臨床研究・治験センター 部長
2026 4 〃 院長補佐（学術担当）（兼任）

日時：令和8年10月15日(木)18時～19時

場所：福島県立医科大学 5号館2階 第7講義室

対面/WEB ハイブリッド開催 司会：鈴木弘行先生（呼吸器外科学講座）

WEB参加を希望される方は、下記アドレスまたは二次元コードからご登録ください。

<https://zoom.us/meeting/register/kkVHyqwiQwCLK4ZmaScqDg>



- ◆がん治療に携わる医師、メディカルスタッフ、患者様及び一般の皆様を対象に公開セミナーとして開催されます。
 - ◆本セミナーは、『東北広域次世代がんプロ養成プラン』事業の一環となっています。
 - ◆本セミナーは、大学院授業要項に基づく「共通必修科目（8）」に該当します。大学院生は履修票をご持参下さい。
- 【お問い合わせ】 福島県立医科大学 教育研修支援課 TEL：024-547-1095 E-mail：ganpro@fmu.ac.jp
- 【次回予定】 令和8年11月10日（火）18時～19時 福島県立医科大学11号館第2臨床講義室
岡山大学学術研究院 医歯薬学域 臨床遺伝子医療学分野 教授 平沢晃先生